「研究論集」の創刊にあたりて

東海学園75年の教育史は男子教育のみに限られていた。この間、学園の誠実な教育方針が社会の信頼を得て、一応教育的成果を収めて一つの尊い教育使命を果たして来た。しかし、東海学園は単に男子教育をもってこと足れりとするものではなかった。教育の根底には、何としても宗教情操なしには真実の人間の教育は出来ないという根本道念より学園教育が生まれている以上、男子教育と並んで、或はそれ以上の重要な意味をもって、学園に女子教育の絶対必要性が考えられて来た。そして、75年の教育史上に於ては、すでに縁あって他の女子学園の教育をたとえ一時的ではあつたが、これを引き受けて来た事実もあったのである。更に、全国的に見て最も宗教と縁の深いこの東海地方に、宗教、特に本当の生きた仏教的情操をもととした女子大教育が絶対的に必要であったのである。

こうした事情から、昭和37年4月、遂にこの名古屋市東郊の平針の丘陵の地に、まず東海女子高等学校を開設する運びとなり、ひき続いて昭和39年4月に至つて、充実せる教授陣を擁して英語科及び家政科をもつ東海学園女子短期大学を開学する運びになつたのである。以来一年、本学の使命は、ややともすればただデパート式な知識の切り売りに等しき授業をもってこと足れりとする最近の大学教育を反省して、どこまでも尊い生きた人間の完成教育に努力をつづけることを目標とすると共に、一方では学問と技術の研究とに絶えざる努力をつづけてゆくことを使命とするものである。そこで、まず、大学の教育設備の充実とともに、直ちに研究の充実ということに重点をおき、それぞれの教授の指導のもとに研究題目を選定して、その研究成果の発表を待つこととなった。かくして、一年間、多忙な中から、夫々の研究題目について真剣に研究討議を進められてまとめられたのがこの第一輯である。

私は今ここに、真摯なる研究発表をせられた各位に深い敬意を表すると同時に今後益々研究を進められて、本学の充実せる学問の体系の樹立に資せられんことを願ってやまないものである。

昭和40年4月

副学長　林　霊　法